

主 題：神の恵み2

聖書箇所：ヨハネ第一の手紙 4章10節

私たちは人から励まされ、愛されることはとてもうれしく思いますが、反対に、人を愛することはなかなかできにくく、難しいことです。しかし、人にはできないことを神はしてくださったのです。

今日の聖書箇所、4：10には「ここに愛があるのです」と、愛について説明されています。

本当の愛とは、(1)意志が伴う、(2)行動が伴う、(3)犠牲が伴う、のです。順に見てゆきましょう。

☆本当の愛とは、

1. 意志が伴う

「神が私を愛し」、この「愛し」は完了形です。過去にあったことが今もそのとおりに続いているのです。二つの観点から見ましょう。

(1) 私たちの神への態度

それは「神を愛さない」ということです。人間は生まれながらに罪を犯すものです。アダムとエバは神に逆らう選択をしました。神よりも自分を愛したのです。自分の思うとおりに生きていきたいとするのです。詩篇 14 篇にはこのようにあります。「愚か者は心の中で、『神はいない。』と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。」、この「愚か者」とは、神を知っていながら知らないという人のことです。これが、神から見た人間なのです。モーセが神から与えられた十戒の一番最初に「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」とあります。人間がどのような者かを神は知ってこのように警告されるのです。神を愛する者はひとりもいないと。

(2) 神の私たちへの態度

「愛し」、これは不定過去という時制です。行動全体をひとつの行為として見る状態です。神の自発的な行為です。私たちが神に逆らうものであるのに、神は愛そうと決められたのです。

2. 行動が伴う

「御子を遣わされた」、この「遣わされた」も不定過去です。過去にそのようなことが起こった事実を述べています。これは歴史的事実です。愛は人の益のために何かをすることです。その行動の動機は自分ではなく人のためです。人より自分を優先するなら出てくるのは不満です。反対に自分より人を優先するなら平安が訪れます。1 ヨハネ 3：17-19「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。」、「真理に属する」とありますが、行動の伴う愛の行為によって、救われていることの確信が増してゆくのです。

3. 犠牲が伴う

「なだめの供え物としての御子」が神の犠牲です。これは私たちの罪のためです。「…ために」とは、…に代わって、代理として、という意味です。はっきりした目的を示しています。「なだめ」は怒りをしずめることです。

今日の箇所から、教えられたことをまとめてみましょう。

(1) 私たちには罪があること

(2) 罪は神に対するもの 神に逆らうという罪です。

(3) 神はその罪に対して怒っておられる

ゆえに「なだめ」が必要なのです。神を信じない者には神の怒りがその上に留まるのです。

(4) 自分の努力で罪の赦しを得ることはできない

(5) 神の助けが必要である

神の怒りをなだめる供え物、それがイエス・キリストです。使徒 4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。」、これが真実です。